

部会名	会場名	会期	参加者数
機械	福島市立福島第三中学校	8月1日～4日 4日間	40名
	郡山市立郡山第一中学校	"	"
	会津若松市立第二中学校	"	"
	原町市立原町第一中学校	"	"
家庭機械	福島市立福島第三中学校	"	"
	郡山市立郡山第一中学校	"	"
	会津若松市立第二中学校	"	"
	原町市立原町第一中学校	"	"
計			320名

(4) 部会の内容

① 機械部会

- ・技術・家庭科教育における安全の心理
- ・安全教育と施設・設備の管理
- ・自転車の性能、動力の伝達、潤滑、制動
- ・治具の製作、カム・リンクの製作

② 家庭機械部会

- ・技術・家庭科教育における安全の心理
- ・安全教育と施設・設備の管理
- ・裁縫ミシンの縫合原理と機構
- ・カム・リンクの製作
- ・繊維の鑑別法と織物の性質

A. 理科設備の学校規模別基準総額、充実総額、現有金額（昭和42. 3. 31現在）

小 学 校

区 分	I (1学級～5学級) (237校)	II (6学級～23学級) (496校)	III (24学級以上) (61校)	計
基準総額	164,307,360	482,647,680	78,999,880	725,954,920
充実総額	26,232,590	232,566,780	38,064,490	296,863,860
現 有 金 額	25,881,470	225,991,580	36,350,590	288,223,640
現 有 率	15.8	46.8	46.0	39.7
		48.2	48.2	40.9

中 学 校

区 分	I (1学級～5学級) (55校)	II (6学級～17学級) (203校)	III (18級以上) (64校)	計
基準総額	87,666,150	373,737,210	160,259,200	621,662,560
充実総額	22,824,770	147,257,760	69,153,560	239,236,090
現 有 金 額	21,739,230	140,744,190	65,061,220	227,544,640
現 有 率	24.8	37.7	40.6	36.6
		39.4	43.2	38.5

高 等 学 校

区 分	I (1人～300人) (0校)	II (301人～1,200人) (46校)	III (1,201人以上) (31校)	計
基準総額		298,703,760	232,270,290	530,974,050
充実総額		93,994,450	73,014,780	167,009,230
現 有 金 額		29,689,550	70,094,770	162,784,320
現 有 率		31.0	30.2	30.7
		31.5	31.4	31.5

(5) 講 師

6月20日～22日まで、理科教育センターで実施した講師講習会に参加した教員をもって、全般的な指導は県教育庁指導主事があたった。

(6) 実施状況および所見

夏季休業中の暑い盛りの時であったが、各地区とも講師陣の周到な準備と指導によって、大きな成果を得ることができた。また、受講者は、昼休みも忘れて終始熱心な態度で研修し、実技習得に努めた。

4 理科教育振興法による設備の充実

理科教育振興法に基づく理科教育設備費補助事業は、昭和29年から実施され、以来10数年を経過している。

その間、36年に理科教育設備基準が一部改訂され、40年には、学校規模・品目・基準数量・基準単価等について、比較的大幅な改訂が行われた。その新基準による初年度の充実の状況は、次のA・B表に示すとおりである。なお、C表はこの補助事業が始められてから14年間の推移を示したものである。

C表からもわかるように、これまで多数の学校に多額の補助金が注入されてきたが、全国的に見るとまだ低率であることは否定できない。本県理科教育の進展を考えると、やはり大きな問題であり、今後大幅な充実対策が望まれることは、県の長期総合教育計画にも述べられているとおりでである。

なお、現有設備の活用についていっそう考慮することによって、この設備補助の真価がじゅうぶんに発揮されるよう、関係者はお互いに努力を続けなければならないと考える。